



からむしのこえ

【福
島】

【山
形】

映画『からむしのこえ』

上映会&トーク

2021 12/4 **土** 開演 14:00
(16:40 終了予定)

会 | フォーラム福島
場 | 福島市曾根田町6-4 / TEL.024-533-1717

前売券：1,000円

当日料金：一般・大学生 1,300円 / シニア 1,100円
プレミアム会員 1,000円 / 高校生以下 500円
※各種招待・割引券はご利用いただけません。

前売券販売場所：フォーラム福島

2021 12/5 **日** 開演 10:00
(12:40 終了予定)

会 | フォーラム山形
場 | 山形市香澄町2-8-1 / TEL.023-632-3220

前売券：1,000円

当日料金：一般・大学生 1,300円 / シニア 1,100円
プレミアム会員 1,000円 / 高校生以下 500円
※各種招待・割引券はご利用いただけません。

販売場所：フォーラム山形 / ソラリス / フォーラム東根



©Karamushinokoe 2019

「からむしだけはなくすなよ」一。舞台は福島県奥会津昭和村。 時代の変化に翻弄されながらも、守り継がれてきた布づくりの「いま」を伝えるドキュメンタリー。

草の糸がつなぐ人と人、時間と場所。福島県の昭和村には数百年にわたる営みを受け継ぐ人たちがいます。「からむし」という植物を育て、繊維をとって糸にし、布を織るという暮らし。奥会津の山あいにある小さな村は、厳しくも豊かな自然のなかで、からむしを栽培してきました。その繊維は新潟県に出荷され、最も上質な布として知られる越後上布や小千谷縮の原材料ともなっています。

なぜ、どのようにして受け継がれてきたのか、受け継がれてゆくのか。これらの問いの答えは、からむしにたずさわる人々の無数の行ないや思いのなかにあるのだと思います。『からむしのこえ』は、その一端を紹介するものです。

春夏秋冬、季節の変化に応じて栽培から織りへと進む工程では、長い歳月をかけて洗練された技が生かされ、伝えられます。数ある工程には、各自の作業もあれば仲間との作業もあります。そこでは、言葉にならない技だけではなく、技をささえる言葉も受け継がれてゆきます。また、からむしを育てるなかで、成長の様子をうかがうことを「からむしの声を聞く」と言うこともあるそうです。耳を傾けるような姿勢、耳を澄ませるような関わり方があるということです。

『からむしのこえ』は、からむしによって導かれる人々の行為や、からむしによって語られる人々の言葉を記録した映画であるともいえます。その喜びやとまどいに触れることで、映画を見る方々が、自分自身の声にも耳を澄ませ、これからの暮らしを考えるきっかけを得ることを願っています。

(『からむしのこえ』監督：分藤大翼)

原題：からむしのこえ (2019/日本/1h32)
監督・撮影・録音・編集：分藤大翼
撮影・録音：春日聡 整音：岡部 潔 題字：華雪
製作：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

【からむし】

からむしはイラクサ科の多年草で、苧麻(ちよま)、青苧(あおそ)とも呼ばれる。国内のからむしは中国大陸から伝わったとされており、縄文時代から利用されていたことが分かっている。



昭和村のからむし栽培は、水はけの良い肥えた畑に、根から取り出した苗を植えるところから始まる。3年目以降、からむしは5月から7月にかけて2メートル近くまで成長する。刈り取ったからむしの葉を落とし、茎の表皮と内側の木質部を取り除くことで、その間の靱皮(じんぴ)から繊維をとることができる。その繊維は、丈夫なうえに吸水性が高く乾きやすい性質を持っており、衣類や工芸品の素材として利用される。

【昭和村】



昭和村は福島県西部の会津地方に位置する。1,000メートル級の山々に囲まれており、村の面積の8割はブナ林(落葉広葉樹林)となっている。また、冬の積雪は2メートルに達することもあり、特別豪雪地帯に指定さ

れている。野尻川・玉川・滝谷川の流域、標高400メートル～800メートルの平坦地に10の集落があり、人口は1,264人(2019年8月1日現在)。高齢化率が50%をこえる過疎地域でもある。

【登壇者プロフィール】

山形への登壇

ぶんどう だいすけ
分藤 大翼 [映像人類学者]



1972年大阪府生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。現在、信州大学全学教育機構准教授。1996年よりアフリカの熱帯雨林に暮らす

Baka(バカ)という狩猟採集民の調査研究と記録映画の制作を行っている。著作に『森と人の共存世界』(京都大学学術出版会)。『からむしのこえ』は国内で制作した最初作品。

「からむしのこえ」公式サイト
[https://karamushinokoe.info/]

くらた たかし
鞍田 崇 [哲学者]



1970年兵庫県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科修了。現在、明治大学理工学部准教授。近年は、ローカルスタンダードとインティマシーという視点から、現代社会の思想状況を問う。著作に『民藝のインティマシー「いとおしさ」をデザインする』(明治大学出版会2015)など。民藝「案内人」としてNHK-Eテレ「趣味どきっ! 私の好きな民藝」に出演(2018年放送)。

なるせ まさのり
成瀬 正憲 [山伏・日知舎]



岐阜県出身、山形県在住。中央大学大学院総合政策研究科修士課程修了。(有)PTP、山形県鶴岡市羽黒町観光協会勤務を経て独立。山伏の修行を重ねながら、大学で人類

学の教鞭をとり、日知舎として多様な経済活動を行っている。土地の採食文化や手仕事を体得し、再構成して制作・流通させることで、そこに培われた知と営みをあらたに展開するしくみを育んでいる。